

# 発掘ニュース

第 3 9 号

平成 5 年 7 月 27 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団  
TEL 0246 (29) 0391

## 荒田目条里遺跡発掘調査終る

いわき市平菅波字礼堂地内で行なわれていた荒田目条里遺跡の発掘調査は、大きな成果をおさめてこのたび終了いたしました。

調査の範囲からは、幅16メートル以上の大きな川が見つかりましたが、その中から古墳時代中頃から平安時代にかけての土器や木簡（もっかん）、椀・皿・折敷（おしき）・ざる、矢じり・手斧、管玉（くだたま）・勾玉（まがたま）などのきわめて大量の遺物が発見されました。特に絵馬や斎串（いぐし）、人・馬・刀を模した古代のまじないや祭に関わるものの発見が多く、この遺跡が日本でも有数の平安時代を中心とする祭祀遺跡であることが判りました。

写真1は、当遺跡から発見された全国的にも珍しい平安時代の絵馬です。古代の人々は、この絵馬にどのような祈りをこめたのでしょうか。



絵 馬



郡司符木簡

## 木簡とは

木簡とは、木の札に墨で年号・郡郷里・人名などが記された資料のことをいいます。これは現代の紙にあたるもので、紙が今日のように普及していない古代において広く使用されました。

今回の調査では35点の木簡が発見されました。県内においては、これまで会津若松市で1点、いわき市で3点しか発見されていなかったことを考えると膨大な出土量といえます。その中でも、郡の命令書である郡司符（ぐんじふ）木簡（写真2）は全国的に見ても数例しかない貴重なものです。国立歴史民俗博物館の平川南教授によるとつぎのような文字が記されていることが判りました。

「郡符 立屋津長伴マ福磨 可□召×  
右為客料充遣召如件長宣承×」

内容は、郡の役所が立屋の港の責任者である伴部（ともべ）の福磨（ふくまる）に来客用のかじ取り・水手または雑役に従事する人の召喚を命じたものです。これは、律令制下の地方政治の実態や磐城郡の水上交通の実態解明に大きな手がかりを与えてくれる資料となるものです。



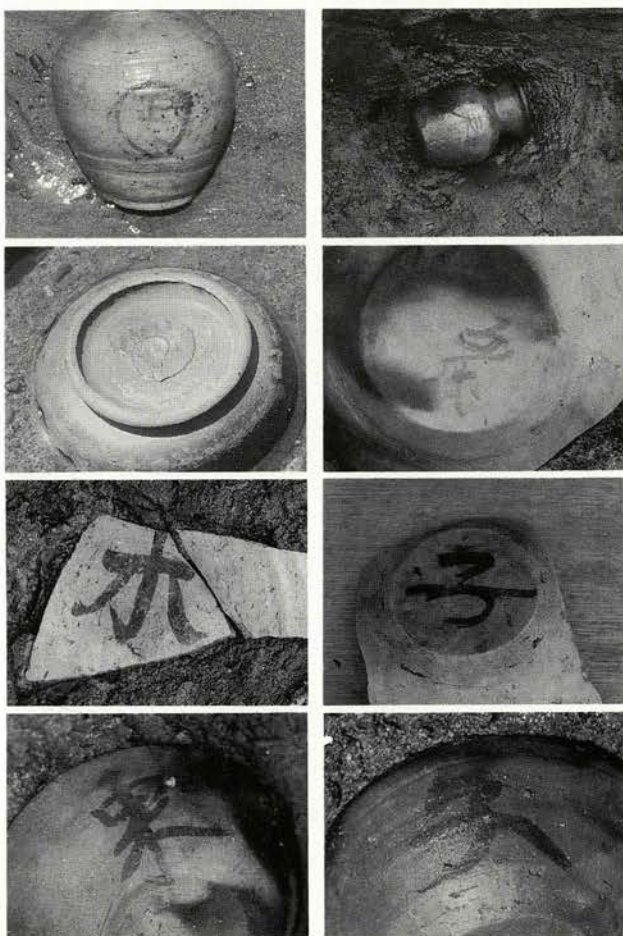
人面墨書土器

## 文字について

今回の調査では、人面墨書（じんめんぼくしょ）土器を含め、文字や記号が墨書きされた土器やヘラで刻みこまれた土器が180点ほど発見されました。

文字には「山寺・倉・東・子・足・柏井・中・田・赤井・太・正合」などがありました。

写真3のひげ面の顔の左に記されている文字は、「磐城郡 磐城郷」が住所を「丈部手子□×」が祈願者の名前をあらわし、「召代」（おぎしろ）は神の降りることをあらわすまじない言葉です。



墨書土器



作業風景 (第3号溝)



作業風景 (第3号溝)



遺物出土状況 (木製品)



遺物出土状況 (馬形)



遺物出土状況 (船形)



遺物出土状況 (木簡)

## 荒田目条里遺跡調査報告 (展示) 会のお知らせ

荒田目条里遺跡の調査報告会をつぎの日程で行ないます。

日時 7月31日・8月1日の10時～16時

(スライド上映10時～10時30分)

場所 夏井公民館

問合わせ (財)いわき市教育文化事業団本部… (29) 0391

調査事務所… (34) 8515